

動物

七郷一色の森を歩いていると、様々な種類の動物に出会うことができます。



昆虫

道路沿いのスギ林や雑木林からは、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ヒグラシなどのにぎやかな鳴き声が聞かれ、ノリウツギの花にクマバチが蜜を吸いに訪れます。

また、ムラサキシジミ、ヤマトシジミ、キチョウやチャバセセリなどのチョウの仲間も飛び交っています。

ダイモウセセリや羽の裏面が銀白色をしたウラギンシジミを見かけます。ウラギンシジミは、他のシジミチョウ科のものの習性と少し違い、湿地、汚物、腐った果物などに好んで群がります。

スギ林では、体長10ミリほどのスギカミキリが採集できます。幼虫が、スギ、ヒノキの幹に入って食べるため害虫とみなされています。

ヒメジョンの花の上で緑色のアオハナムグリをみかけます。緑色でよく似た仲間にハナムグリ、コアオハナムグリなどがおり、コアオハナムグリは、ボケやバラの花、ヌルデやハギの花などによく集まります。

植物

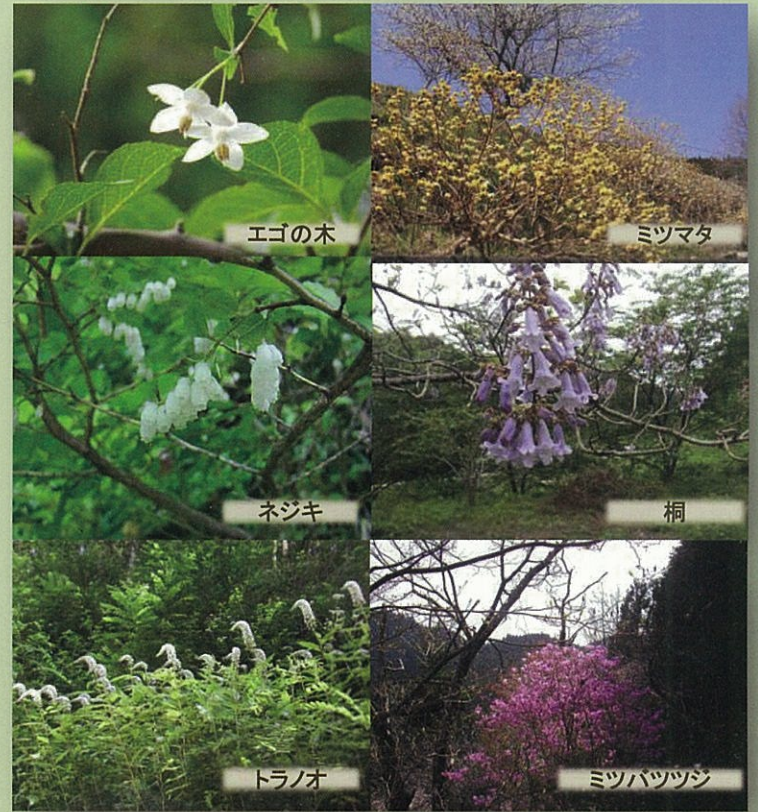
七郷一色では、四季を通じて様々な種類の山野草・花木が季節を彩っています。



●六本松から二川橋まで

春にはモチツツジ、ミツバツツジの花が色鮮やかに咲き乱れ、夏になると、オカトラノオ、ノリウツギ、エゴの木などの白い花が咲きます。秋には、リュウノウギク、アキノキリン草、キハギ、ネジキなどが見られます。また、シダ類も多く観察できます。

林道大島夏明線では、所々にヒノキの植林やホオノキ、イイギリ、キブシなどの木が見られ実が梨に似て猿が食べるという意味のサルナシも見られます。和紙の原料であるミツマタやヒメコウゾも観察できます。



●二川橋から朝霧橋まで

道の左手は大島川につくったV字谷で、右手はスギやヒノキの林が続きます。そこには、薬草のヒキオコシやダイコン草が見られます。

夏には、湿地にイワタバコ、秋には赤いミズヒキイや青紫のツルリンドウの花が咲きます。木ではヤマハゼ、クロモジ、ヤブツバキ、シイ、サンショウ類も見られます。



クロモジ



サンショウ

●朝霧橋から大島ダムまで

朝霧橋たもとのツルウメドキは見事です。その実は夏は緑、秋にははげて、皮の黄色と中の赤の色合いががとともきれいです。付近の尾根筋には、アカマツに混じって、ヒメコマツ、ツガが観察できます。朝霧橋を境にして、上流と下流では川沿いの植物がかなり異なっています。

この辺りは、イロハモミジ、ヤマザクラ群集があり、大島川流域では最も広い落葉樹群落です。この群落は、秋の紅葉が美しく大島川渓谷の特徴となっています。赤く色付くのは、イロハモミジ、ヤマウルシ、ヌルデなどです。アケビやクルミの木も見られます。また、猫が実を食べると酔うといわれているマタタビも見られます。



鳥獣

旧七郷一色小学校からの眺めはすばらしく、上昇気流に乗ってゆっくりと輪を描きながら飛んでいるトビを見ることができます。

獣では、ニホンカモシカ、ニホンジカ、ニホンザル、カルガモ、キツネ、タヌキ、イノシシ、ハクビシン、ノウサギ、イタチ、テン、ムササビなどが確認されています。



ニホンカモシカ

クロツバメシジミ 市指定天然記念物

大島川流域で最も注目したい昆虫は、クロツバメシジミです。このチョウは、幼虫が食べるベンケイ草科のツメレンゲが大きな岩石や岩山の岩はだに生育する植物であるため、分布が少なく生息地も限られています。



清流の生物

夏明川・大島川・黒沢川に住む生き物:

魚類 — ヨシノボリ(じんだ) カワムツ(メスブト、オスアカブト) アブラハヤ(のめっちょ) ※放流魚 アマゴ

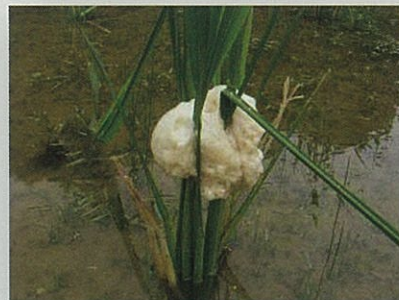
カメ虫の仲間 — ミズカマキリ ニホンイシガメ アメンボ

昆虫の幼虫 — ヤゴ(とんぼの幼虫) カイボ(トビケラの幼虫) ホタルの幼虫

その他 — サワガニ カワニナ カメ モリアオガエル



ニホンイシガメ



モリアオガエルの卵



ニホンジカ



カルガモ



コアジサイ



ハンショウヅル